

「愛なんブランド」の創造に向けて

愛媛県 愛南町長

たにぐち

谷口

ちようじ

長治



1 「愛南町」の誕生

平成16年10月1日、愛媛県の最南端に位置する5町村（内海村・御荘町・城辺町・一本松町・西海町）が合併し、愛南町が誕生しました。海岸部は、典型的なリアス式海岸を形成し、「足摺宇和海国立公園」にも指定されており、水産業中心の地域であります。山間部は、四国山脈から分岐した篠山を中心に森林地帯が広がっており、ここを発した僧都川の流域に平野部が開け、温暖な気候のもと、多様な地形と降り注ぐ太陽の恵みを利用して、甘夏柑や河内晩柑などのかんきつ栽培も盛んに行われています。

2 豊かな生態系を育む「御荘湾」

僧都川の河口に広がる御荘湾干潟には、南から黒潮分流の影響を受けつつ、宇和海北部が瀬戸内海とつながっているという特殊な地理的環境とも相まって、先ごろ環境省が行った「生物多様性総合調査」では、ドロアワモチなど生息する生物の十種

類近くが県内初記録となるなど、国内有数の多様な魚類や無脊椎動物の宝庫となっていることが証明されました。

3 「愛なんブランド」の創造

専門家によりますと、「泥干潟は、一見汚らしい場所ではありますが、下水処理場で代替できないほどの浄化機能を持っているだけでなく、森から流れ込む豊かな川の水が海水と混じる汽水域こそ、多くのプランクトンが育つ。」と言われます。今、まさに旬である御荘湾で養殖されている「カキ」が大きくおいしく育つのも、この循環システムから得られる「海の力」によるものだと言われます。熱く語ります。海・山・川が一体となって織りなすかけがえのない愛南町の自然の中で育まれた各種の産物が、元気な人によって「愛なんブランド」として、着実に根付いていくことを心から願っています。



御荘湾と僧都川沿線に広がる平野部



冬の味覚「御荘湾の養殖カキ」



にわか漁師で賑わう「御荘湾立て干し網」